

## 外国語科における関係形成を育む授業の創造

|      |        |       |             |    |        |
|------|--------|-------|-------------|----|--------|
| 指導主事 | 市原 小百合 | 研究協力校 | 山鹿市立山鹿小学校   | 教諭 | 岩木 太一郎 |
|      |        | 研究協力員 | 山鹿市立中富小学校   | 教諭 | 松尾 良也  |
|      |        | 研究協力校 | 山鹿市立山鹿中学校   | 教諭 | 田崎 英明  |
|      |        | 研究協力員 | 上天草市立大矢野中学校 | 教諭 | 岡崎 卓   |
| 指導主事 | 濱 寛明   | 研究協力校 | 熊本県立鹿本高等学校  | 教諭 | 田中 修治  |

### 1 研究の視点

#### (1) 視点1について

外国語科及び外国語活動の目標が、コミュニケーション能力を養うことであることは学習指導要領からも明らかである。本研究は、学習活動における「相手意識」を高めることと学習課題設定の工夫に焦点を当てた研究である。

岡部（1993）は、コミュニケーションの定義について、以下のように述べている。

「コミュニケーションとは、他者を理解し、かつ他者からも理解されようとする過程で、状況全体の動きに応じて、ダイナミックで、常に変化する動的なものである」（下線は筆者による）

このことから、コミュニケーションには、その対象となる相手が必要であることが分かる。学習活動において、他者を理解し他者からも理解されようとする意識、つまり「相手意識」を高めることで、「積極的にコミュニケーションを図る態度」の育成につながり、コミュニケーション能力が高まっていくと考える。

また、ドルニュイ（2001）は、学ぶ意欲を高める学習課題の内容の特徴の一つとして「個人的な要素（The personal element）」を挙げている。その説明によると、学習課題を学習者自身の実生活と関連付けて設定することであり、そのことにより学習者がより積極的に学習課題に取り組むことができると述べている。

本研究では、児童生徒が学習課題を身近に感じられるような設定を工夫し、学習活動をより「実際のコミュニケーションの場」に近づけることで、児童生徒の相手意識を高めることをねらいとした。

これらの取組によって、児童生徒の主体的な「学びを引き出す」こととした。

#### (2) 視点2について

協働・協調的な学びを展開する授業において、児童生徒の思考過程を見取することに視点を置く。「思考の可視化」の観点から、ウェビングマップなどの思考ツールを用いて生徒の発想を広げることをねらいとした。また、ワークシートを工夫することにより、学習の成果を可視化できるようにした。関係形成についての変容を見取る振り返りカードでは、児童生徒が授業前後や単元前後の自らの変容を認識し、自らの学びを管理する「自律的学習者（Autonomous learner）」を育成することを目指した。

さらに、個、ペア、グループという学習形態において、それぞれの形態における学習活動を工夫し、関連付けていくことで、児童生徒が、自分の考えと他者の考えを比較したり、自らの考えを再構築したり、新しい考えを生み出したりすることなどをねらった。そしてその過程における児童生徒の思考の深まりについて検証を行う。

#### (3) 視点3について

ICT 機器を、学習活動のねらいに応じて使用することで、児童生徒が学習内容を更に理解しやすくすること、ICT 機器利用により板書時間などを短縮することで、児童生徒の活動時間を確保することをねらいとした。

また、授業のめあてや、学習活動の手順・ルールを明示することで、児童生徒が安心して授業に取り組むことができるような工夫を行った。板書の工夫においては、板書の構造化にも取り組んだ。授業の流れを明示する場所、学習内容を記述する場所、児童生徒の考えを記述する場所などをあらかじめ決めておくことで、児童生徒が授業に見通しを持つことができ、活動自体に集中できるようにした。

## 2 研究の実際

表 1 Lesson 5 の指導・評価の計画

指導・評価の計画（4時間扱い 本時3／4）

|      |                                                         |
|------|---------------------------------------------------------|
| 検証 1 | 山鹿市立山鹿小学校第 6 学年                                         |
| 単元名  | 「Lesson 5 Let's go to Italy!」<br>(Hi, friends! 2 文部科学省) |

## (1) 本単元の授業設計

| 要素(取組の視点)                 | 方策                  | 具体的内容(例)                                                                                  |
|---------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>視点1</b><br>学びを<br>引き出す | 豊かなかかわり合いのある言語活動    | ○児童の学習意欲を高め、目的意識や相手意識のある学習活動                                                              |
| <b>視点2</b><br>学びを<br>振り返る | 思考過程の可視化と振り返り       | ○関係形成の高まりをみとめるための振り返りカード<br>○活動中で行う中間評価(コミュニケーションへの価値付け)<br>○児童同士による相互評価(コミュニケーションへの価値付け) |
| <b>視点3</b><br>学びを<br>支える  | 学びのUD化<br>効果的なICT活用 | ○授業の流れの提示、板書の構造化<br>○コミュニケーションポイントの提示<br>○効果的なICTの活用<br>○効果的なイラストや絵カードの活用                 |

図 1 本単元における各視点



図 2 Lesson 5 の単元構想

図 1 は本単元における授業設計である。また単元構想を図 2 のように示し、単元の目標を「夢の世界旅行に行こう！」とした。第 1 時「新しい語彙に出会わせる」、第 2 時「表現に慣れ親しむ」、第 3 時「コミュニケーション活動」、第 4 時「更に価値あるコミュニケーション活動」という 4 時間構成である。単元のゴールの姿をイメージさせるために、毎時間 HRT と ALT のデモンストレーションを取り入れた。

| 次 | 時       | 学習活動                                                                                                                                                                                    | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                         |
|---|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1       | ○国名の言い方を知り、慣れ親しむ。<br>○世界の国々の国旗や世界遺産について興味を持つ。<br>・あいさつ<br>・歌<br>・アルファベットの復習<br>・めあて<br>・国旗や世界遺産の語彙<br>・国旗クイズ<br>・振り返り                                                                   | ・一斉で国名の言い方に慣れ親しむ活動を行う。<br>【視点1】国名の言い方では、国旗カルタやポイントゲームなど様々な活動を通して、楽しく聞いたり言ったりすることができるようになる。<br>【視点3】授業の流れを示しておくことで、児童が授業の見通しを持つことができるようになる。また、語彙に慣れ親しむために、効果的な ICT の活用を通して本単元に必要な語彙に慣れ親しむ。                                       |
| 2 | 1       | ○行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。<br>・あいさつ<br>・歌<br>・国名の復習<br>・めあて<br>・先生の行きたい国クイズ<br>・ラッキーカードゲーム<br>・友だちの行きたい国をインタビュー<br>・振り返り                                                             | ・「どこに行きたい？」という尋ねる表現や「行きたい」「食べたい」「見たい」などの表現に慣れ親しむため、様々な活動を通してできるだけ児童が多く聞いたり言ったりする活動を行う。<br>【視点1】旅行パンフレットを見ながら、言いたい聞きたいという目的意識を持たせたコミュニケーション活動を行う。<br>【視点3】視覚教材等を工夫することで、必然性を持たせたコミュニケーション活動の支えとする。                               |
| 3 | 1<br>本時 | ○おすすめの本国を紹介する表現に慣れ親しむ、どんな PR の仕方をしたらよいか考え、自分の行きたい国を紹介する表現に慣れ親しむ。<br>・あいさつ<br>・歌<br>・自分の行きたい国を紹介する表現の復習<br>・めあて<br>・先生のおすすめの本国クイズ<br>・グループでおすすめの本国を紹介<br>・他のグループと互いにおすすめの本国を紹介<br>・振り返り  | ・基本表現を使いながら、自分の行きたい国について写真などの具体物やジェスチャーを使って分かりやすく伝え合う。相手の発表について返しや質問をし、聞く態度を育てるとともに、コミュニケーションを主体的に継続する態度を養う。<br>【視点1】より相手意識のある活動にし、グループ活動をメインに自分たちだけで活動を進める時間を増やす。<br>【視点2】分かりやすい伝え方や友だちのよさなど、児童の多様な気付きを今後の学習へつなぐような振り返りの時間とする。 |
| 4 | 1       | ○自分たちのおすすめの本国をクラスに発表し、友だちのおすすめの本国の発表を聞く。最後に自分の「夢の世界旅行」先を決める。<br>・あいさつ<br>・歌<br>・おすすめの本国を紹介する表現の復習<br>・めあて<br>・グループでおすすめの本国を紹介する表現の確認<br>・グループごとにポスターセッション方式で紹介<br>・自分の「世界旅行」決定<br>・振り返り | ・おすすめの本国の紹介から、友だちの発表を聞いたあと、自分のプランを考えるという活動を設けることで、目的意識をより明確にする。<br>【視点1】目的に沿った内容を自分たちで分かりやすく説明したりコメントを返したりすることで、豊かにかかわり合う活動を行う。<br>【視点3】行きたい国について伝え合ったり質問したりすることで相互理解を深める。                                                      |

## (2) 指導の実際

### Lesson 5 第3時

目標：おすすめの国を分かりやすく紹介する。

1 あいさつをする。

【視点3】授業の流れを示しておくことで、児童の学習意欲を継続できるようにする。

2 語彙を復習する。

(1) キーワードゲームをする。

3 表現を復習する。

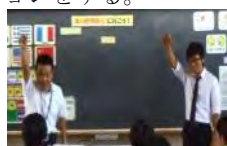
(1) チャンツを歌う。

(2) 表現を確認する。



4 HRT と ALT によるデモンストレーションをする。

デモンストレーション  
から本時のめあてへ



5 本時のめあてをつかむ。

おすすめの国を分かりやすく紹介しよう！

6 おすすめの国を紹介する表現に慣れ親しむ。

(1) おすすめの国を紹介する表現を確認する。

(2) 先生たちのおすすめの国クイズをする。

(3) Let's Listen 2 を聞き取る。

【視点1】前時までの語彙や表現への十分な慣れ親しみを土台とし、より相手意識が必要な活動に取り組み始めるようにする。また、グループ活動をメインに自分たちだけで活動を進める時間を増やす。

7 おすすめの国をPRする。

(1) 3人でおすすめの国を紹介する表現を考える。

(2) 3人で分かりやすく紹介するには、どうしたらよいか考える。

(3) 他のグループとおすすめの国を紹介し合う。

Let's go to China.  
You can see Great wall  
and panda(s). You can  
eat Beijing duck.  
China is a nice country.  
Let's go to China.



協働・協調的な  
学び



中間評価  
(価値付け)

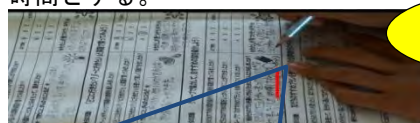
Good Point はどこかな？  
「Good Gesture !」  
「Eye Contact !」  
「Clear Voice !」  
Let's try one more time.

8 学習を振り返る。

(1) 本時の学習で分かったこと気付いたことを伝え合う。

(2) 振り返りカードを書く。

【視点2】分かりやすい伝え方や友だちのよさなど、児童の多様な気づきを今後の学習へつなぐような振り返りの時間とする。



自己評価  
相互評価

できるだけジェスチャーを付けたり、大きな声で言ったりして、納得してもらうようにした。  
(ジェスチャー、クリアボイス、アイコンタクト)

## 検証2 山鹿市立中富小学校第5学年

単元名 「Lesson 5 What do you like?」

(Hi, friends! 1 文部科学省)

## (1) 本単元の授業設計

| 要素(取組の視点)                 | 方策                  | 具体的内容(例)                                                                                |
|---------------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>視点1</b><br>学びを<br>引き出す | 豊かなかわり合いのある言語活動     | 〇慣れ親しむ活動から価値あるコミュニケーション活動への単元構想                                                         |
| <b>視点2</b><br>学びを<br>振り返る | 思考過程の可視化と振り返り       | 〇一時間の学習の成果が見えるワークシートの工夫<br>〇活動中での中間評価(コミュニケーションへの価値付け)<br>〇児童同士による相互評価(コミュニケーションへの価値付け) |
| <b>視点3</b><br>学びを<br>支える  | 学びのUD化<br>効果的なICT活用 | 〇授業の流れの提示、板書の構造化<br>〇コミュニケーションポイントの提示<br>〇効果的なICTの活用<br>〇効果的なイラストや絵カードの活用               |

図3 本単元における各視点



図4 Lesson 5 の単元構想

図3は本単元における授業設計である。また単元構想を図4のように示し、単元の目標を「Tシャツをデザインして、グッドデザイン賞を決めよう！」とした。第1時で新しい語彙に触れ、第2時で表現の言い方に慣れる。第3時で店員と客という場面設定の中で、語彙や表現を用いながら活動して、Tシャツをデザインする。第4時で自分のTシャツを紹介し合い、最後に「グッドデザイン賞」を決めていく単元構成である。

表2 Lesson 5 の指導・評価の計画

指導・評価の計画（4時間扱い 本時3／4）

| 次 | 時           | 学習活動                                                                                                                                                                 | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1           | ○日本語と英語の音の違いに気付き、色や形の言い方を知る。<br>・あいさつ<br>・チャンツ<br>・めあて<br>・色や形の語彙<br>・Listening&Speaking Time<br>・ポインティングゲーム<br>・キーワードゲーム<br>・振り返り                                   | ・日本語と英語の音声の違いを明確にするため、ALTとの発音練習の時間を確保する。<br>【視点1】色や形の言い方を使い、児童に人気の高い2つの活動を行うことで、英語での発音や聞き取りを楽しみながらたくさんできるようにする。<br>【視点3】板書の絵カードとシートの絵を統一したり、学習の流れをパターンにアテはめて行ったりすることで、児童が授業に見通しを持つようにする。                                                                                                                      |
| 2 | 1           | ○色や形の言い方に慣れ親しみ、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。<br>・あいさつ<br>・チャンツ<br>・ゲーム活動<br>・Listening&Speaking Time<br>・めあて<br>・Tシャツさがしの活動<br>・カード集めゲーム<br>・振り返り                            | ・好きな色や形などを尋ねる表現を知り、慣れ親しむために様々な活動を通して、児童に言わせたり、聞かせたりする。<br>【視点1】「同じカードを集める」など活動の目的を持ち、児童の活動意欲の向上を図る。<br>【視点2】単元学習カードに相互評価の項目を設けることで、相手のことを考えたり、よく聞いたりする態度を養う。                                                                                                                                                  |
| 3 | 1<br>本<br>時 | ○好きなものについて、積極的に尋ねたり、答えたりしようとする。また、自分のオリジナルのTシャツをデザインする。<br>・あいさつ<br>・チャンツ<br>・ゲーム活動<br>・Listening&Speaking Time<br>・めあて<br>・人気調査<br>・Tシャツづくり<br>・振り返り                | ・コミュニケーション活動の中に活動の目的を持つことができるようにすることで、児童の活動意欲の向上を図る。また、本時までの学びを活用する活動を設定することで、既習の活用へとつなげるようにする。<br>【視点1】「人気調査」と「Tシャツづくり」に関連のある活動にする。<br>【視点2】単元学習カードに相互評価の項目を設けることで、相手のことを考えたり、よく聞いたりする態度を養う。<br>【視点3】毎時間の学習をパターン化することで、児童に見通しを持つことができるようにする。Tシャツ作成の際に使用する教材は、磁石を使うことで自由に動かすことができるようにし、児童が試行錯誤しながら活動できるようにする。 |
| 4 | 1           | ○それぞれのTシャツを紹介しながら、好きなものについて積極的に尋ねたり、答えたりしようとする。最後に「グッドデザイン賞」を決める。<br>・あいさつ<br>・チャンツ<br>・ゲーム活動<br>・Listening&Speaking Time<br>・めあて<br>・Tシャツ紹介<br>・グッドデザイン賞決定<br>・振り返り | ・前時で作成したオリジナルのTシャツを互いに紹介し合う活動を通して、本単元の学びの活用を図るようにする。<br>【視点1】相手意識や目的意識のある学習活動として「Tシャツ紹介」の場面を設定する。<br>【視点2】その時間の学びを明確にするために、学習の成果が見えるワークシートを活用する。                                                                                                                                                              |

(2) 指導の実際

Lesson 5 第3時

目標：色や形の言い方や、好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。

1 あいさつをする。  
【視点3】毎時間の学習をパターン化することで、児童が見通しを持つことができるようにする。

2 「Word Time」に取り組む。  
・チャンツ  
・Listening&Speaking Time  
・カード集めゲーム



3 本時のめあてをつかむ。

人気の色や形を調査して、Tシャツをデザインしよう！

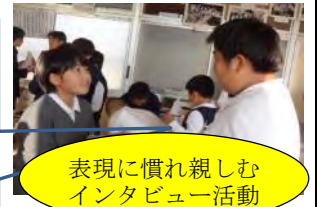
4 Activity 1

「人気調査をしよう」

(1) 「色」「形」「スポーツ」「アルファベット」の観点ごとに好きなものをインタビューする。  
チャンツを歌う。

(2) 調査結果はシートに記録しておく。

Hello. Hello.  
What shape do you like?  
I like heart.  
What color do you like?  
I like red.  
Thank you. See you.



表現に慣れ親しむ  
インタビュー活動

【視点1】「人気調査」と「Tシャツづくり」に関連を持たせることで、必然性のある活動にする。

5 Activity 2

「Tシャツをデザインしよう」

(1) 「店員役」「客役」の2グループに分ける。  
(2) 「客役」は制限時間内に各店へ行き、自分のデザインに必要なアップリケをもらう。  
(3) 制限時間がきたら、役割を交代する。  
(4) 2グループともアップリケを手に入れたら各自、Tシャツをデザインする。  
(5) デザインしながら、必要なアップリケがある場合は、再度教師とやりとりする。



【視点3】Tシャツ作成の際に使用する教材は、磁石を使うことで自由に動かすことができるようにし、児童が試行錯誤しながら活動できるようにする。

協働・協調的な  
学び

Good Gesture !  
Nice smile !  
Good Eye Contact !  
Nice T-shirt ができてる



店員とお客  
ロールプレイ

【視点2】単元学習カードに相互評価の項目を設けることで、相手のことを考えたり、よく聞いたりする態度を養うようにする。

6 学習を振り返る

1時間の学習の成果が  
見えるワークシート



### (3) 検証結果と考察

#### ① 児童の意識調査から

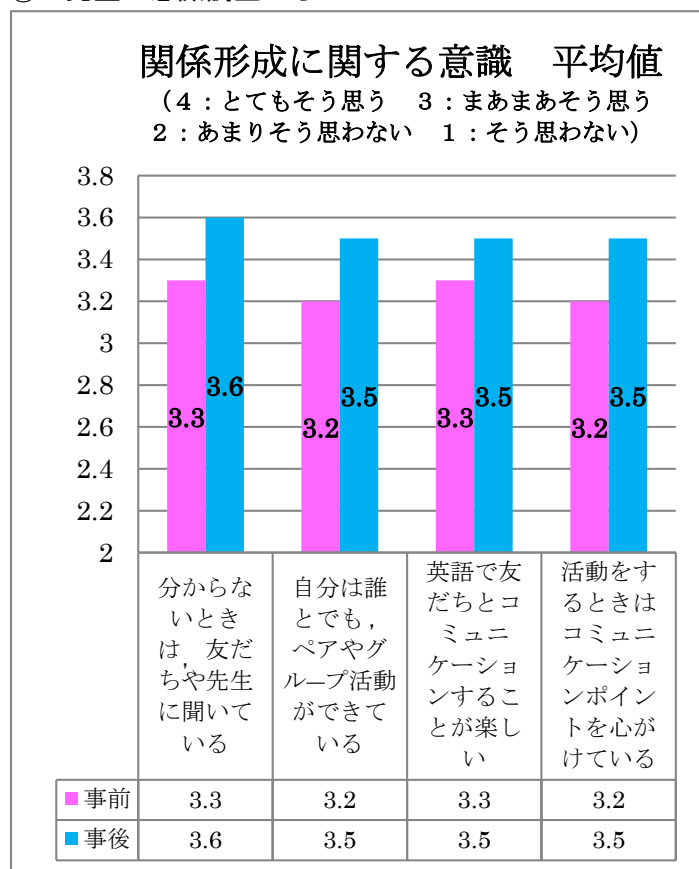


図5 関係形成に関する意識：4件法（N＝37）

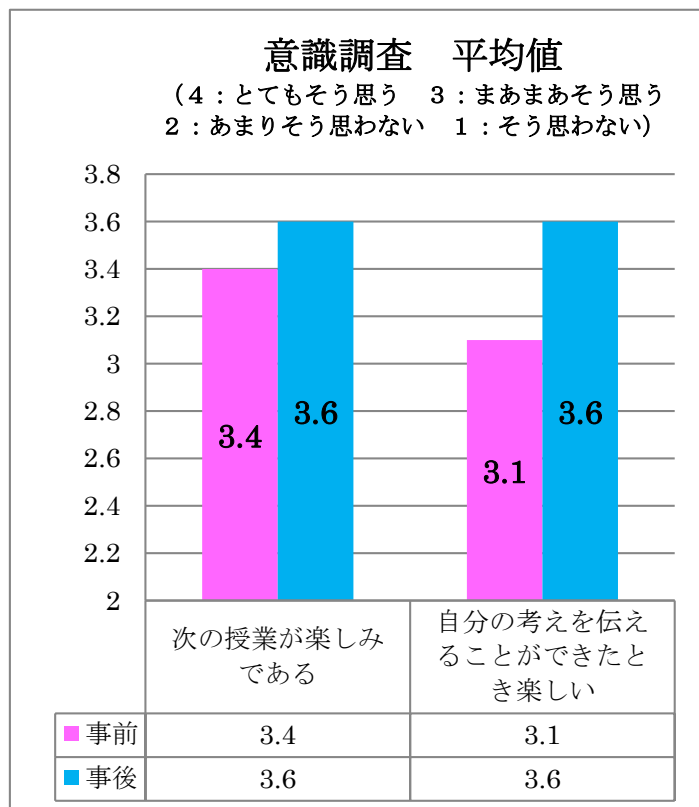


図6 外国語学習に関する意識：4件法（N＝37）

関係形成に関する項目として、4項目を挙げた(図5)。4項目において、肯定的な回答の割合が増加した。誰とでも関わり合い、コミュニケーションをすることが楽しいという回答から、児童が本研究を通して、「人と関わりたい」という欲求が高まっていると捉える。単元構成をする際に、教師がペアやグループ活動を意図的に取り入れていくことは、児童の学習への意欲を喚起するとともに、英語教育本来の他者との関わりを生み出すことになる。また、外国語活動において相手意識や目的意識を引き出す学習課題を設定することは、児童自身がコミュニケーションポイントを意識することにもつながると考える。

外国語活動の意識調査において、「聞きたい」「言いたい」という単元を貫く言語活動を設定することは、次の授業への意欲を喚起することになると考える。また、思ったことや気づきを共有できる振り返りの場を設けることで、児童が自身をメタ認知する機会となり、更に他者と考えを共有できる時間となり、自己有用感の高まりにもつながると考える。

あなたは英語で友だちとコミュニケーションをするとき、「相手の言っていることがよく分からない」と感じたら、どうしますか。

上の質問は関係形成に関する意識調査の中で記述式にした項目である。検証授業の事前と事後の結果をテキストマイニングで分析したものである(図7、図8)。

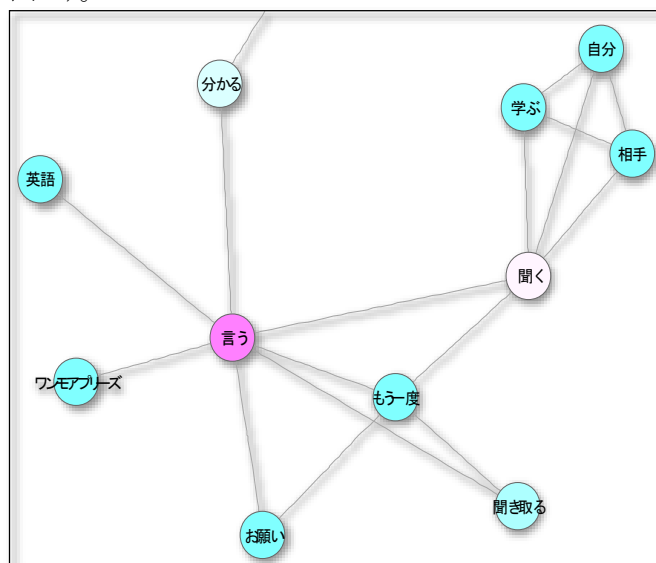
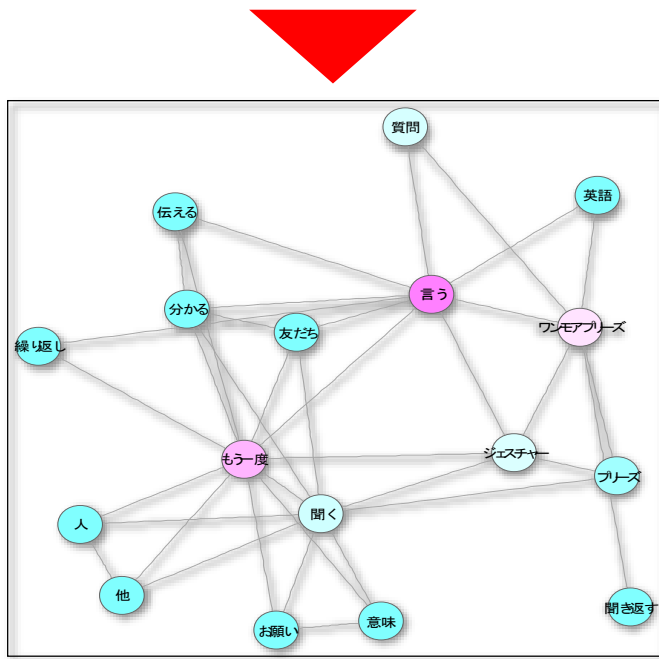


図7 テキストマイニング：事前（N＝37）



**図8 テキストマイニング：事後（N=37）**

事前のテキストマイニングの結果から、「言う」をキーワードに、「もう一度言う」「もう一度お願いと言う」という記述が見られた。また、他者と関わるという部分での記述はあまり見られなかった。しかし、事後のテキストマイニングの結果から、「言う」「もう一度」をキーワードに「英語で言う」「ワンモアプリーズと言う」「もう一度聞く」「もう一度お願いする」という記述が多かった。更に、事後の結果の中には、「友だち」「ジェスチャー」「伝える」というキーワードも挙がり、相手意識の高まりが見られたことがうかがえる。他者に伝えるためにはどうすればいいのか、そして自分はどうしたいのかという児童の意識の変容が見られた。また、「ワンモアプリーズ」というキーワードも多く書かれており、本単元を通して、児童が英語を使う場面を多く設けたことで英語の表現を生かそうとする意識が高まった。

以上のことから、協働・協調的な学びを通して、豊かな関わり合いのある言語活動を展開していくことは、関係形成を築くのに有効であると考えられる。目的意識・相手意識のある学習課題を通して、児童が互いに伝え合う楽しさや友だちのよさに気づき、伝えたい気持ちや伝わったときの喜びを感じている。また、お互いを理解しよう、相手の存在を受け入れようという気持ちも育まれていると考えられる。

## ② 3つの視点から

ア 視点 1 について

児童の学習意欲を高め、  
目的意識や相手意識のある学習課題

語彙や表現を慣れ親しむ活動を通し、  
自信を持って表現できる活動へ



英語を使って、他者とコミュニケーションを図るということは、そこに他者を理解するという関係形成が築かれると考える。児童の学習意欲を高め、目的意識や相手意識のある学習課題を設定することで、児童の他者と関わりたい欲求が高まると考える。他者との協働・協調的な学びの中で、自分の考えを提案し、他者の考えと交流し合い、相手にその内容を伝わるように工夫していくという過程の中に、他者理解の価値が生まれる。自分の行きたい国を伝える以上に、相手におすすめの国を紹介することは、目的意識や相手意識の伴う価値あるコミュニケーションである。また、オリジナルのTシャツをデザインするために、クラス内の色や形の人気調査をしてTシャツづくりに取り組むことも目的意識や相手意識のある学習課題となっている。

外国語活動において、単元構想を練ることは非常に重要である。新たな語彙に出会わせ、表現に慣れ親しませ、そしてコミュニケーション活動へと展開していく構成は、児童が外国語活動に自信を持って取り組むことにもつながる。以下は授業後の感想である。

どこに行きたい？ 「アメリカに行きたい」  
大きくジェスチャーをされていてとてもよかった。  
発表の声が大きくて、ちゃんとみんなで最後まで  
協力してやっていたことが印象に残り、行きたく  
なった。  
(振り返りカードの感想より)

## イ 視点2について

中間評価及び相互評価  
(コミュニケーションへの価値付け)

関係形成の高まりをみとめるための  
振り返りカード

一時間の学習の成果が残る  
ワークシートの工夫



活動中で行う教師からの中間評価は、コミュニケーションへの価値付けを行うことができ、児童に英語活動の意図を明確にすることができる。また、児童同士による相互評価においても、コミュニケーションへの価値付けはもちろん、他者を理解する視点を児童に持たせることができる。

関係形成の高まりをみとめるための振り返りカードは、その時間の学習のねらいを明確にした振り返り項目を設定しておく必要がある。また、1時間の学習の成果が残るワークシートは、児童の思考の過程が見えるものであり、一人学びや学び合いをスムーズにしてくれるものである。児童にその時間の頑張りを相互評価する欄を設けておくことで、児童は互いに友だちのよさや頑張りに気付くことができる。授業の終末の振り返りでは、ペアやクラスで伝え合う時間を設定することで、更に他者理解が深まる。

**自分たちのおすすめの国を選んでもらうために、  
どんな工夫をしましたか？**

できるだけジェスチャーをつけたり、大きな声で  
言ったりして、納得してもらうようにした。

(ジェスチャー、クリアボイス、アイコンタクト)  
(振り返りカードの感想より)

上は児童の授業後の感想である。他者と合意形成を図ろうとする記述も見られ、活動の中で目的意識や相手意識を持って、活動していたことが分かる。

## ウ 視点3について

板書の構造化

授業の流れの提示

効果的なICTの活用

効果的な絵や写真の活用



板書を構造化することや授業の流れを提示することは、児童に先の見通しを持たせ、安心して授業に臨ませることができる手立てである。また、ICTの活用は、児童に教材を焦点化、視覚化、共有化するのに、効果的である。絵や写真の活用においても、児童の意欲を喚起するのに大変有効である。おすすめの国を紹介する拡大パンフレットやTシャツづくりの色や形のマグネットのアプリケは、児童の姿を通して見ると、英語を「聞きたい」「言いたい」という英語を使う必然性を生み出すものとなった。英語を使って、他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の姿を見ることができた。

検証3 山鹿市立山鹿中学校第2学年  
 単元名 「Program 9 A Priest in a Mask」  
 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

(1) 本単元の授業設計

| 要素(取組の視点)                 | 方策                  | 具体的内容(例)                                                                |
|---------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <b>視点1</b><br>学びを<br>引き出す | 豊かなかかわり合いのある言語活動    | ○生徒の学習意欲を高め、目的意識や相手意識のある学習活動<br>○単元を通しての学習課題の提示<br>○ウェビングマップなどの思考ツールの活用 |
| <b>視点2</b><br>学びを<br>振り返る | 思考過程の可視化と振り返り       | ○個→ペア、グループ、全体→個の学習形態の工夫<br>○思考過程が見えるワークシート<br>○生徒同士による相互評価              |
| <b>視点3</b><br>学びを<br>支える  | 学びのUD化<br>効果的なICT活用 | ○授業の流れの提示<br>○効果的なICTの活用                                                |

図9 本単元における各視点

| 次       | 時 | 学習内容                                                   |
|---------|---|--------------------------------------------------------|
| 1<br>本時 | 1 | 比較表現(比較級)の意味や用法を理解し、2つのことを比べて説明する活動をする。(地域紹介文も)        |
|         | 2 | 比較表現(最上級)の意味や用法を理解し、3つ以上のものなどを比べて説明する活動をする。(地域紹介文も)    |
|         | 3 | 比較表現(原級)の意味や用法を理解し、同じ程度のものについて説明する活動をする。(地域紹介文も)       |
| 2       | 4 | 比較表現(比較級)を用いた本文の内容を理解し、自分の好きなものをほかのものと比較する活動をする。       |
|         | 5 | 比較表現(最上級)を用いた本文の内容を理解し、自分の学校の中でいちばんのものを紹介する活動をする。      |
|         | 6 | 比較表現(原級)を用いた本文の内容を理解し、自分の身の回りにある同じくらいのもを紹介する活動をする。     |
| 3       | 7 | 比較表現を含む山鹿市をPRする紹介文を書き上げる。(3年間を通して、よりよい地域紹介文への再構築されていく) |

図10 Program 9の単元構想

図9は本単元の授業設計である。また単元構想を図10のように示し、検証授業は第2時とする。単元全体として「山鹿市の自慢をしよう！」という目的意識・相手意識のある学習課題を設定する。第1時～第3時まで山鹿市の紹介文を書き加えながら、第7時で練り上げる。各時においてWriting活動を通して、多様な考えを持った他者と協働しながら考えを伝え合う場を設けることで、自分の考えを深めるとともに、関係形成を築いていく姿を検証する。

表3 Program 9の指導・評価の計画(一部抜粋)

指導・評価の計画(7時間扱い 本時2/7)

| 次 | 時       | 学習活動                                      | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                    |
|---|---------|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 1       | ○県の面積など2つのことを比べて説明することができる。               | ・山鹿市と他の市町村と比較する文を表現できるようにする。<br>【視点1】「山鹿市の自慢をする」という単元を通しての課題を設定し、目的意識・相手意識のある学習活動とする。<br>【視点2】ウェビング・マップを用いて、自分の紹介したい山鹿市のこと・ものを収集・分類・整理する。<br>【視点3】授業の流れを示し、生徒が見通しを持てるようにする。絵や写真などを用いて、新出表現に慣れるために効果的にICTを活用する。                             |
|   | 1<br>本時 | ○3つ以上のものや人の中で最も程度が高いものについて説明できる。          | ・山鹿市を紹介する文の中に「最も程度の高いもの」を付け加えて説明する。<br>【視点1】互いの情報や意見・考えを伝え合い、山鹿市を紹介する文の発想を広げる活動に取り組む。<br>【視点2】自分の意見・考えを英文にまとめ、さらにより説得力のあるものにするためのポイントを基に評価・改善し合う。<br>【視点3】授業の流れを示し、生徒が見通しを持つようにする。絵や写真などを用いて、新出表現に慣れるために効果的にICTを活用する。                      |
|   | 1       | ○身の回りのもので同じ程度のものについて説明できる。                | ・山鹿市を紹介する文に他の市町村と比べて同じ程度のものを説明する文を付け加えるようにする。<br>【視点1】山鹿市を紹介する文の中に、これまでの比較の表現を効果的に付け加えるために、お互いに情報や意見を伝え合う。<br>【視点2】自分の意見・考えを英文にまとめ、さらにより説得力のあるものにするためのポイントを基に評価・改善し合う。<br>【視点3】授業の流れを示し、生徒が見通しを持つようにする。絵や写真などを用いて、新出表現に慣れるために効果的にICTを活用する。 |
| 3 | 7       | ○比較級・最上級・原級による比較表現をうまく使い山鹿市をアピールする文章をつくる。 | ・Program 9で学習している比較表現をうまく使い、つなぎ言葉、接続詞、不定詞などこれまで習った表現を総動員して、山鹿市をアピールする文を完成する。<br>【視点1】ペアやグループ活動で対話しながら、読み手を意識したつながりのある文を適切なつなぎ言葉を使ったり、理由を付け加えたりして書き上げる。<br>【視点2】自分の意見・考えを英文にまとめ、さらに互いの文章をより説得力のあるものにするためのポイントを基に評価・改善し合う。                   |

## (2) 指導の実際

### 1 Warm Upをする。

【視点3】授業の流れを示しておき、生徒に見通しを持たせる。また絵や写真などを用いて、新出表現に慣れるために、効果的にICTを活用する。

### 2 本時の課題を確認する。

単元目標：新しいALTに山鹿市の自慢をしよう！  
本 時：山鹿市を紹介文に「最も程度の高いもの」  
を付け加えて説明しよう！

#### (1) Listen to the teachers.

#### (2) Pattern Practice【一斉→ペア→個】



Mt. Fuji is higher  
than Mt. Aso.  
Mt. Fuji is the highest  
mountain in Japan.

個→ペア→一斉

最上級を Pattern Practice で練習して活用を図る。自分の最上級を用いた文を、ペアでやりとりをしながら定着を図る。クラスを回りながら、多くの生徒と最上級の文を繰り返す。

#### (3) Communicative Activity

【視点1】お互いの情報や意見・考えを伝え合い、山鹿市の紹介文の発想を広げる活動に取り組む。

最上級を用いた山鹿市を紹介する文を個で考える。そして、ペアで互いの考えをやりとりする。

#### (4) Writing

【視点2】自分の意見・考えを英文にまとめ、更にお互いの文章をより説得力あるものにするためのポイントを基に評価・改善し合う。



協働・協調的な  
学び

相互評価  
(価値付け)

最上級を用いた山鹿市の紹介文を、これまで作成してきた地域紹介の文章に入れ込む。そしてグループでコメントしながら、アドバイスを書き込む。相手意識や読み手意識を大切にしながら、文の構成、接続詞や代名詞の使い方、そして内容について、相互評価を行う。

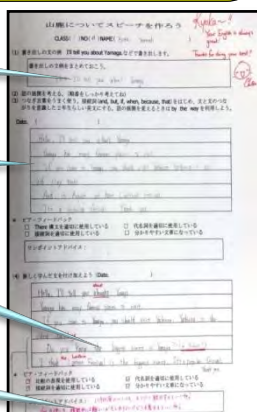
書き出しの文

前単元で書いた  
地域紹介文

本単元で書いた  
地域紹介文

アドバイスをもとに  
再構成

思考過程が見えるワークシートの工夫



## 検証4 上天草市立大矢野中学校第1学年

### 単元名 「Unit 7 サンフランシスコの学校」

(NEW HORIZON 1 東京書籍)

## (1) 本単元の授業設計

| 要素(取組の視点)                 | 方策                  | 具体的内容(例)                                                                |
|---------------------------|---------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <b>視点1</b><br>学びを<br>引き出す | 豊かなかかわり合いのある言語活動    | ○生徒の学習意欲を高め、目的意識や相手意識のある学習活動<br>○単元を通しての学習課題の提示<br>○ウェビングマップなどの思考ツールの活用 |
| <b>視点2</b><br>学びを<br>振り返る | 思考過程の可視化と振り返り       | ○個→ペア、グループ、全体→個の学習形態の工夫<br>○思考過程が見えるワークシート<br>○生徒同士による相互評価              |
| <b>視点3</b><br>学びを<br>支える  | 学びのUD化<br>効果的なICT活用 | ○授業の流れの提示<br>○効果的なICTの活用                                                |

図 11 本単元における各視点

| 次 | 時  | 学習活動                                                |
|---|----|-----------------------------------------------------|
| 1 | 1  | 疑問詞Whoの意味や用法を理解し、友だちを紹介するクイズ活動をする。                  |
|   | 2  | 疑問詞Whoを用いた本文の内容を理解し、ペアで誰かを紹介するスキット活動をする。            |
| 2 | 3  | 疑問詞What timeの意味や用法を理解し、Hi, Friends!を活用してインタビューをする。  |
|   | 4  | 疑問詞What timeを用いた本文の内容を理解し、ペアで日常生活について質問する活動をする。     |
| 3 | 5  | 疑問詞Whatの意味や用法を理解し、教科、色、お気に入りの場所などについて質問する活動をする。     |
|   | 6  | 疑問詞Whatを用いた本文の内容を理解し、自分の学校について英文で書く。                |
| 4 | 7  | 疑問詞Whichの意味や用法を理解し、食べ物、季節、お気に入りの場所などについてインタビューをする。  |
|   | 8  | 疑問詞Whichを用いた本文の内容を理解し、アメリカと自分の学校の違いについて英文で書く。       |
| 5 | 9  | 学校紹介のホームページを作ろうというテーマのもの、新しいALTに紹介するために自分の学校紹介文を書く。 |
|   | 10 | 観光に訪れる外国人に地域紹介をしようというテーマのもと、地域紹介文を書く。               |

図 12 Unit 7 の単元構想

図 11 は本単元の授業設計である。また単元構想を図 12 のように示し、検証授業は第 10 時とする。単元の終末に「新しい ALT に地域紹介をしよう」という目的意識・相手意識のある学習課題を設定する。第 9 時の学校紹介文の発展として、地域紹介を設定した。各時では Writing 活動を通して、多様な考えを持った他者と協働しながら考えを伝え合う場を設けることで、自分の考えを深めるとともに、関係形成を築いていく姿を検証する。

表4 Unit7の指導・評価の計画（一部抜粋）

指導・評価の計画（10時間扱い 本時10／10）

| 次 | 時       | 学習活動                    | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---|---------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | 1       | 必要な情報を整理し、自分の学校紹介の文を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unit7で学習した疑問詞や既習表現を活用して、大矢野中の紹介文を書く。</li> <li>・紹介文の書き方のポイントを提示し、書き方を理解する。</li> </ul> <p>【視点2】<br/>学び合ったことを踏まえて、改善した紹介文を発表する。</p> <p>【視点3】<br/>内容を確認するために、原稿をカメラで映し出し、表現活動のポイントを効果的に紹介する。</p>                                                                                                      |
|   | 2<br>本時 | 必要な情報を整理し、自分の地域紹介の文を書く。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学校紹介の文をもとに、観光に訪れる外国人に郷土のことを紹介するという、相手意識、目的意識のある学習課題を設定する。</li> <li>・読み手を意識したまとまりのある文章を書くためにはどうしたらいいか考え、ペアと一緒に改善する。</li> </ul> <p>【視点1】<br/>思考ツールで発想を広げる。意見交換のポイントを確認し、互いの紹介文を改善する。</p> <p>【視点2】<br/>学び合ったことを踏まえて、改善した紹介文を発表する。</p> <p>【視点3】<br/>内容を確認するために、原稿をカメラで映し出し、表現活動のポイントを効果的に紹介する。</p> |

## (2) 指導の実際

1 Warm Upをする。

(1) あいさつ

(2) I Can Do It



Hello.  
How are you?

2 既習事項の復習をする。



既習表現をディクテーションをして、教師のQ & AにAnswer + One の活動をする。

3 本時の課題を確認する。

観光に訪れる外国人に郷土のことを英語で  
分かりやすく伝えよう！

4 パートナーとお互いに作成した地域の紹介文を交換し、意見交換を行ったあと、改善する。

【視点1】意見交換のポイントを確認し、お互いの紹介文を改善する。



協働・協調的な  
学び

相互評価  
(価値付け)

個でウェビングマップを用いて、地域紹介の発想を広げる。ペアで同じテーマで地域紹介文を書く。グループで相手のペアにアドバイスを相互評価の場を設定する。そのあと、再度ペアでアドバイスをもとに地域紹介文を再構成する。

5 改善した紹介文を発表する。

(1) グループ内で発表を行い、分かりやすく地域のことを書いている紹介文の一つを選ぶ。

(2) グループ代表の発表を行い、よい表現やポイントを共有する。

(3) 発表したことに対して、コメントやインタラク션을行う。

6 本時のまとめをする。

### (3) 検証結果と考察

#### ① 生徒の意識調査から

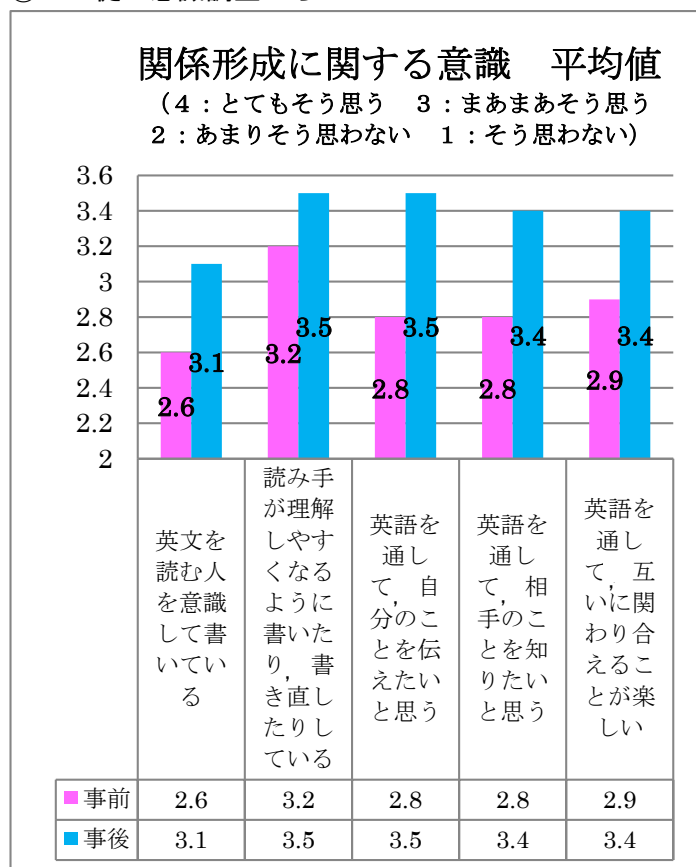


図 13 関係形成に関する意識 : 4 件法 (N = 36)

関係形成に関する項目として、5 項目を挙げた (図 13)。5 項目において、肯定的な回答の割合が増加した。Writing 活動を行う上で、読み手を意識した学習課題を設定したことで、「英文を読む人を意識して書いている」が 0.5, 「読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている」が 0.3 ポイント上がった。また、協働・協調的な学びを通して学習に取り組むことで、英語を通して「自分のことを伝えたい」、「相手のことを知りたい」「互いに関わり合えることが楽しい」という項目において、関係形成の高まりが見られた。

協働・協調的な学びに関する項目として、5 項目を挙げた (図 14)。これらの 5 項目においても、肯定的な割合が増加した。生徒自身が考えの異なる他者と学び合う価値を見出していると考えられる。自分の考えを伝える、自分の考えを正しい考えに直す、自分の考えと友だちの考えを比べてそのよさに気付く、友だちの考えを取り入れ組み立て直す、自分の考えと友だちの考えをつなぎ合わせて新しい考えを創り出すという、協働・協調的な学びの形態を授業にどう取り入れていくのかが、教師の授業構想と大きく関わってくると考える。

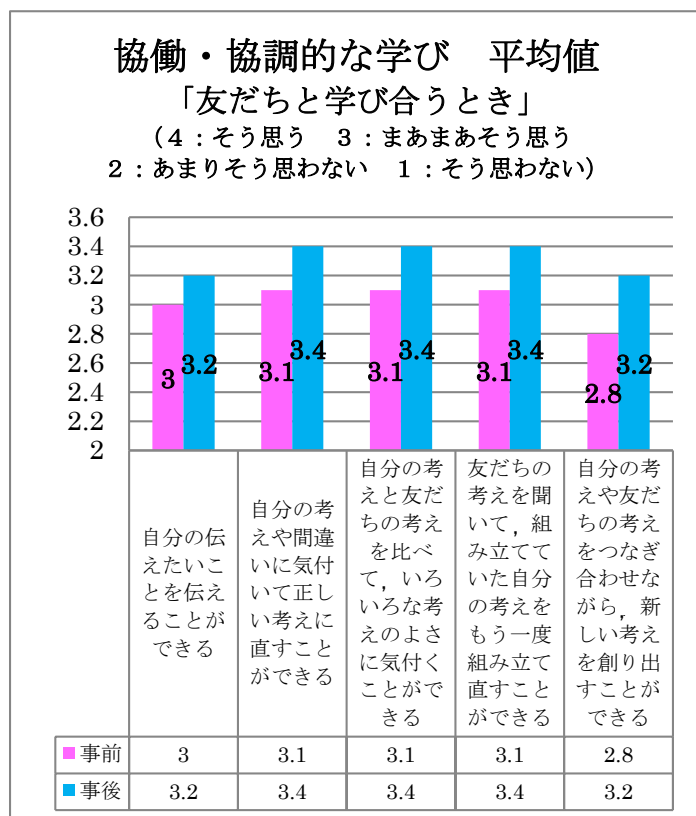


図 14 英語学習に関する意識 : 4 件法 (N = 36)

英語で書くとき、一人で書いたものを、ペアやグループなどで意見交換やアドバイスしながら、更に書き上げていく活動に興味はありますか。それはなぜですか。

上の質問は関係形成に関する意識調査の中で記述式にした項目である。検証授業の事前と事後の結果をテキストマイニングで分析したものである (図 15, 図 16, 図 17)。

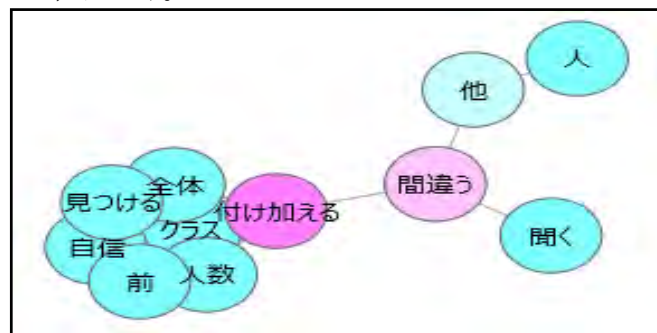


図 15 テキストマイニング : 事前 (N = 36)

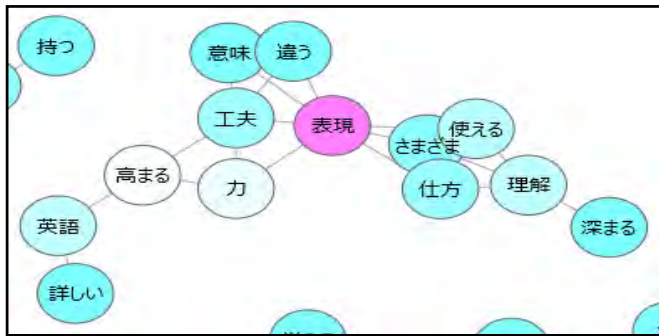


図 16 テキストマイニング：事後（N＝36）

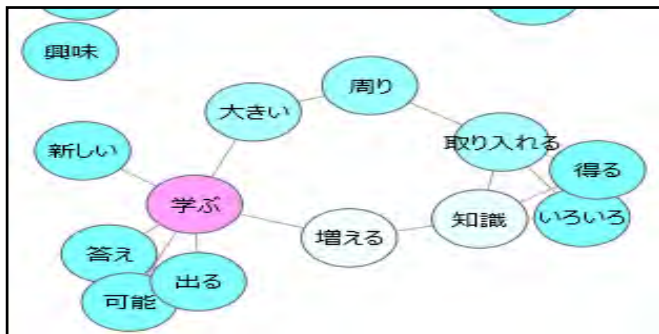


図 17 テキストマイニング：事後（N＝36）

意識調査の中から、互いに意見交換やアドバイスしながら英文を書き上げていく活動に興味を持っている生徒の割合は、36人中33人であった。事前のテキストマイニングの結果から、「付け加える」「間違える」をキーワードに、「クラスや全体で発表する前に付け加えると自信が持てる」「他の人から聞いて間違いが分かる」という記述が多かった。しかし、事後のテキストマイニングの結果から、大きく二つの変容が見えてきた。まず、一つは「表現」というキーワードである。「理解が深まる」「英語力が高まる」「表現の工夫を知ることができる」「みんなの意見を聞くことで、自分の考えが広がる」「さまざまな表現の仕方を理解でき、自分の使える表現が分かる」という記述が見られ、他者と関わることで、個としての自分の学びが深まりを自覚していることが読み取れる。もう一つは「学ぶ」というキーワードである。「いろいろな知識を取り入れる」「新しいことを学ぶことができる」「一人で学ぶよりも周りの考えを取り入れると学びが大きい」「みんなと学び合うと、また新しい考えを生み出せる」という記述も見られた。このことから、他者と学び合うことで新たな価値ある学びを体感していることが考えられる。

## ② 3つの視点から

### ア 視点1について

生徒の学習意欲を高め、  
目的意識や相手意識のある学習課題



ペアやグループで一つのトピックについて対話する活動や「地域を紹介しよう」という目的意識・相手意識を引き出す学習課題を設定し、その学習課題解決に向けて、お互いの情報や意見、考えを伝え合い、発想を広げる活動を通して、豊かな関わり合いのある授業を展開した。今回は **Writing** 活動の取組であったので、生徒に読み手を意識させた活動とした。現行学習指導要領の言語活動の指導事項において、書くことの領域で再編成が行われた。その中に、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」と示してある。新しい ALT や地域に求められる外国人の観光客に対して、どんな地域紹介文にするのかをまず個で考え、そして協働・協調的な学びの中で意見や考えを練り上げていく。英語を通して、生徒同士のインタラクションの場面を展開することを通して、よりコミュニケーション的な学習活動になると考える。

視点2でも述べるが、豊かな関わり合いのある言語活動を展開する上で、学習形態の工夫は、学びを深めるひとつの要素となる。個からペアへ、ペアからグループへ、グループからペアへ、ペアから個へという流れは、協働・協調的な学びによって個が自律的に学ぶことも支えている。関係形成と自律的活動は相互関係があると考えられる。

## イ 視点2について

思考過程が見える  
ワークシートの工夫

個→ペア，グループ，全体→個の  
学習形態の工夫



自分の意見や考えを英文にまとめ、更にお互いの文章をより説得力あるものにするために、思考過程が見えるワークシートを工夫した。ウェビングマップの思考ツールを活用し、自分の発想を広げさせ、自分の考えをまとめていく。そして協働・協調的な学びを通して、自分の考えを他者の考えに出合わせることで、より豊かに再構築され、新たな価値のある考えへと高まっていく。その思考過程が見えるワークシートを活用することは、生徒自信の学習へのメタ認知にもつながるものである。活動の途中で教師による中間評価や生徒同士による相互評価を取り入れることで、学びは深まってくると考える。

次に、個→ペア，グループ，全体→個の学習形態の工夫についてである。「多様な学習者がお互いの個性を認め合い、違いを乗り越えて学び合いながら、それぞれが知識・考え・新しい価値を獲得・創造する学習」である協働・協調的な学びは、多くの他者と出合わせることが必要である。そのことを通して、互いに関わり合う関係形成を築くことができるのではないかと考える。以下は授業後の感想である。

### 本時の授業を通しての感想

いろいろな人に自分の地域を紹介することの楽しさを学べてよかった。いろいろな人に地域のことを伝えられてよかった。

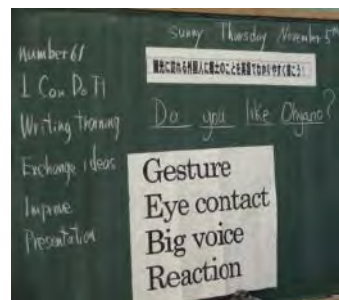
周りからアドバイスをもらって相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか分かった。また、観光客の方に今日習ったことを使って、地域のことを伝えられたらと思う。

(大矢野中 1年生感想より)

## ウ 視点3について

授業の流れの提示

効果的な ICT の活用



授業の流れを提示することは、生徒が先の見通しを持つことができ、安心して授業に臨むことができる手立てである。中学校の英語の授業においても、小学校の外国語活動でコミュニケーションの素地を育成する上でも大切にされているコミュニケーションのポイントを示すことは有効であると考え。また、ICTの活用は、生徒に教材を焦点化、視覚化、共有化するのに、効果的である。電子黒板を用いて、言語事項を導入したり、その表現をパターンブラクティスすることができる。実物投影機では、生徒のワークシートを映し出し、クラス全体で考えを共有することができる。生徒が前に出て発表するときに、原稿を映し出しておくのか、発表後に映し出すのかも授業者の意図がそこにある。全員参加の授業を保障するためにも、ICTの活用は有効であると考え。

# 検証5 高等学校第2学年

単元名 「The Solar System's Biggest Junkyard」  
ELEMENT English Communication II 啓林館

## (1) 本単元の授業設計

本単元では、「読むこと」において生徒が的確に教科書本文の内容を理解することをねらいとした。その中で、「読むこと」と「話すこと」を統合した活動において相手を意識し、英語でコミュニケーションをとろうとする生徒の姿を目指した。協働・協調的な学びを充実させる手立てとしては、日本語教育で用いられる「ピア・リーディング」の手法を取り入れた。また、単元内で教科書本文の内容に関する話し合い活動を設定することで、「読むこと」と「話すこと」を統合した活動を行い、教材の本質にせまることをねらいとした。

## (2) 指導の実際

### ①視点1：ピア・リーディング (Peer Reading)

館岡 (2005) によれば、ピア・リーディング (Peer reading) とは、「本来はひとりで行い、なおかつ外には表れない読みの過程をあえて外に出し、対話を通して協働的に学んでいく方法」である。基本的にはペアで活動を行う。その手順の一例を以下に示す。

ア. ペアで本文音読→イ. 話し合いながら読み進める→ウ. 内容真偽課題→エ. 内容質問課題

イの話し合いでは、習得しようとする言語で話し合いをしたほうが学習した言語の定着率が高いとされている。今回の検証では、ワークシートを準備し、ペアでその問題に取り組みながら、教科書本文の内容を確認し合うという形にした。また、実践していく中で、生徒同士が読んだ内容を英語で確認する活動が難しいとのことだったので、その活動は日本語で行うことにした。

また、グループによる話し合い活動において、話し合いのテーマ設定をできるだけ身近に感じ、自分の意見を持ちやすくなるよう工夫した。今回の単元は「宇宙ゴミ」を扱ったもので、生徒たちにとってもあまりなじみのないものであった。そこで、第2時におけるテーマを「我々はなぜ宇宙にロケットや衛星を打ち上げるのか」と設定した。第5時は、「我々はロケットや衛星を打ち上げ続けるべきである」という

論題に対して、賛成か反対かを理由を付けて述べるという活動にした。

Lesson6 The Solar System's Biggest Junkyard 13

13

(1) Answer the questions in ENGLISH.  
【Q1】 What is the junkyard a serious problem for?  
【Q2】 How many satellites are there in orbit all the time?  
【Q3】 What do we need to do in order to avoid collisions?

(2) Explain the incidents in 13.  
★What happened to the space shuttles and satellites?  
Complete the pictures and fill in the blanks.  
【In 1983, Space Shuttle】

Name (1) 1

cause of the damage  
②  
If the junk had been larger,  
③

【Space Shuttle】  
Name (4) 1

Two satellites  
④ had to change directions.

【Reason】  
⑤

(4) Choose the key word of 13. a. junkyard b. danger c. astronauts d. collisions

図18 検証授業で使用したワークシート

### ②視点2：振り返りシートの工夫

今回の検証では、振り返りを各授業で行い、自己評価を一覧化することで生徒が自分自身の変容に気付くことをねらった。自己評価の項目については、コミュニケーションへの態度を問うもの、ピア・リーディングに関するもの、話し合いに関するもので、最後に自由記述欄を設けた。

Lesson6 振り返りシート 2年3組 ( ) 号 氏名 ( )

(4:よくできた 3:ややできた 2:あまりできなかった 1:ほとんどできなかった)

|                     | 1&2        | 13         | 14&5        | 16                 | 17               | 平均                 |
|---------------------|------------|------------|-------------|--------------------|------------------|--------------------|
| 聞くこと                |            |            |             |                    |                  |                    |
| あいづち                | 4          | 4          | 3           | 3                  | 4                | 3.6                |
| 目をみる                | 4          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 4                  |
| うなづき                | 2          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 3.6                |
| 笑顔                  | 4          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 4                  |
| 最後まで聞く              | 4          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 4                  |
| 内容確認・聞き返し・繰り返す      | 4          | 3          | 4           | 3                  | 4                | 3.6                |
| 話すこと                |            |            |             |                    |                  |                    |
| 安心                  | 3          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 3.8                |
| 目をみる                | 4          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 4                  |
| 笑顔                  | 3          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 3.8                |
| 大きな声で               | 3          | 3          | 3           | 3                  | 3                | 3                  |
| ピアリーディング            |            |            |             |                    |                  |                    |
| small talkがうまくできた。  | 4          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 4                  |
| ペア活動で理由をつけて意見を言えた。  | 4          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 4                  |
| ペア活動で本文の内容が理解できた。   | 4          | 4          | 4           | 4                  | 4                | 4                  |
| ペア活動で自分の意見を言えた。     | 3          | 3          | 4           | 4                  | 3                | 3.4                |
| ペアで協力してできた。         | 4          | 3          | 4           | 4                  | 4                | 3.8                |
| 話し合い                |            |            |             |                    |                  |                    |
| 話し合いで相手に意見を伝えた。     |            | 4          |             |                    | 4                | 4                  |
| 話し合いで相手の意見を理解できた。   |            | 4          |             |                    | 4                | 4                  |
| 話し合いで意見をまとめることができた。 |            | 3          |             |                    | 3                | 3                  |
| ひとこと振り返りとの目標設定      | ペアで話し合ったこと | ペアで話し合ったこと | 自分の意見を言えたこと | ペア活動で本文の内容が理解できたこと | 話し合いで相手に意見を伝えたこと | 話し合いで相手の意見を理解できたこと |

図19 検証授業で使用した振り返りシート

### ③視点3：話し合い活動などのフォーマット (Format)

事前の実態調査から、ペア活動や話し合い活動に対して自信がない様子が分かった。それを解消するために、ペア活動や話し合い活動での英語での発言の型 (format) を示した。

### 相手を納得させる意見の言い方

① **I think it's good / wrong** (立場を明確化)  
**because** (理由) .  
※教科書や資料から根拠を付けよう。  
according to ～, ～によれば

② **I think** (立場からの評価) .

図 20 意見を述べる際のフォーマット

### (3) 検証結果と考察

#### ①生徒の意識実態調査の結果より

単元実施前後で、生徒のペア活動に対する意識に図 21 のような変容が見られた。

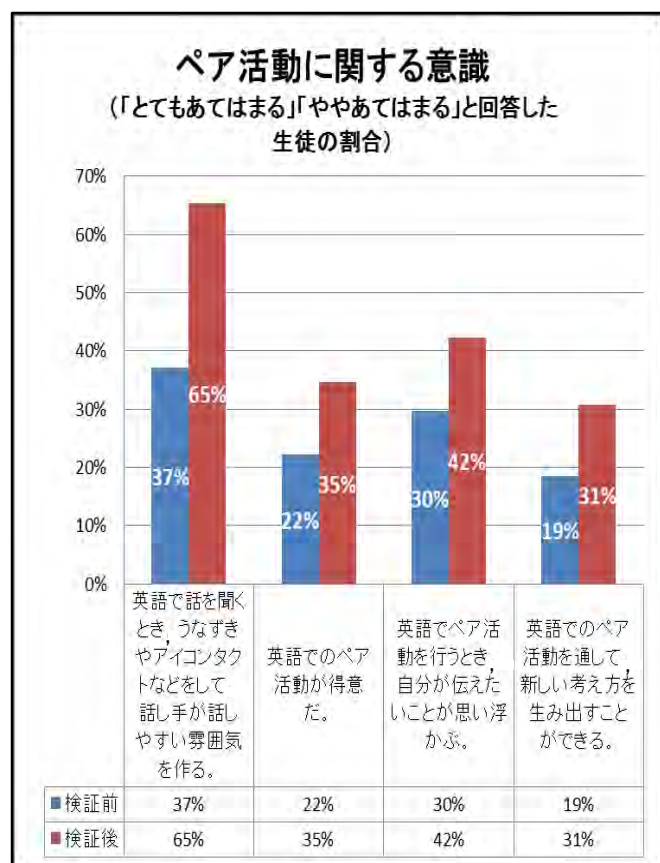


図 21 ペア活動に関する意識 (N=30)

話を聞くときの姿勢に関する項目では、肯定的な回答の割合が 28 ポイント増加した。この結果より、話を聞く際の相手意識が向上したと考える。また、ペア活動に対する 3 項目においても、肯定的な回答の割合が増加した。特に「伝えたいことが思い浮かぶ」「新しい考えを生み出すことができる」の 2 項目の結果から、自らの考えを持つことや、交流により

新しい価値観を得ることができる生徒が増えたと捉えることができる。これは、Small Talk の導入や、ピア・リーディングの導入により、ペア活動の時間が十分に確保され、協働・協調的な学びによる効果が表れたものとする。

また、批判的読解に関する意識についてもわずかなではあるが図 22 のような変容が見られた。

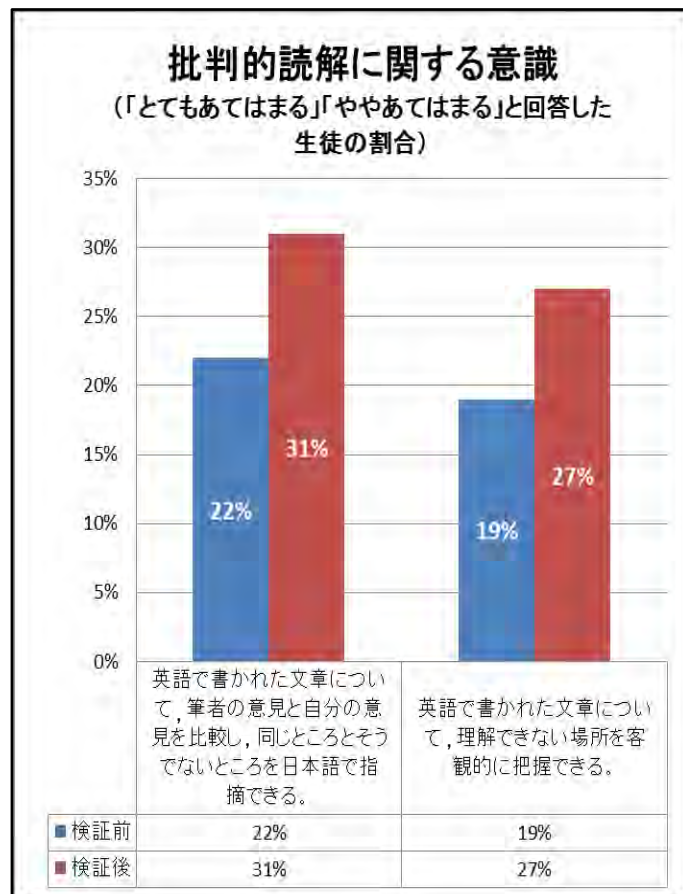


図 22 批判的読解に関する意識 (N=30)

筆者の意見と自分の意見を比較しながら読むことへの意識や、理解度の把握について肯定的な回答がそれぞれ増加した。これは、ワークシートにおいて設定した問いによるものだと考えられる。筆者の主張の根拠を答えさせたり、英文で描写してある状況を図示化させることで、英文の内化を促したのであろう。また、ピア・リーディングにより、お互いの理解を外化して確かめ合う機会ができたことで、理解度の把握の度合いが高まったとも考えられる。

## ②学習に関するアンケート結果より

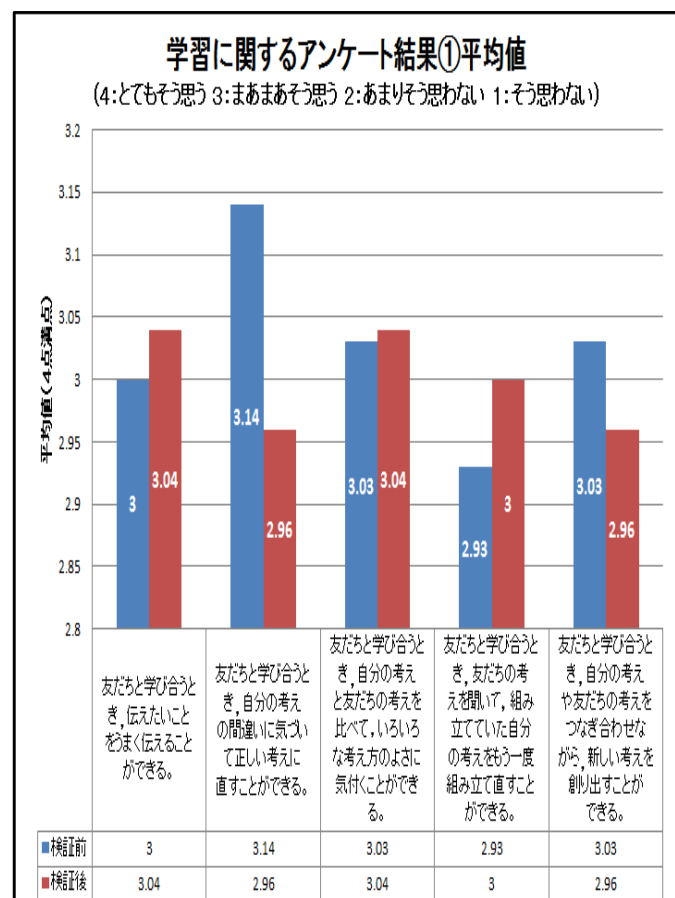


図 23 協働・協調的な学びについて (N=25)

図 23 の結果より、「伝えたいことをうまく伝えることができる」という項目については数値が 0.04 ポイント増加した。これは、生徒がコミュニケーション能力に対して有用感を感じるようになったことを表していると考ええる。また、「自分の考え方をもう一度組み立て直すことができる」という項目では、数値が 0.07 ポイント増加した。これは、生徒が「協働・協調的な学び」を通して、自らの考えを捉えなおそうとする意識が高まったことを表していると考ええる。

一方で、「自分の考えの間違いに気づいて正しい考えに直すことができる」、及び「自分の考えや友だちの考えをつなぎ合わせながら、新しい考えを創り出すことができる」という項目では値が下がった。これは、話し合い活動の充実を図るための工夫が足りなかったことを示していると考ええる。多様な価値観に触れさせ、また合意形成を図っていくような話し合い活動を設定することが、関係形成を更に高めるためにも必要であることが分かった。

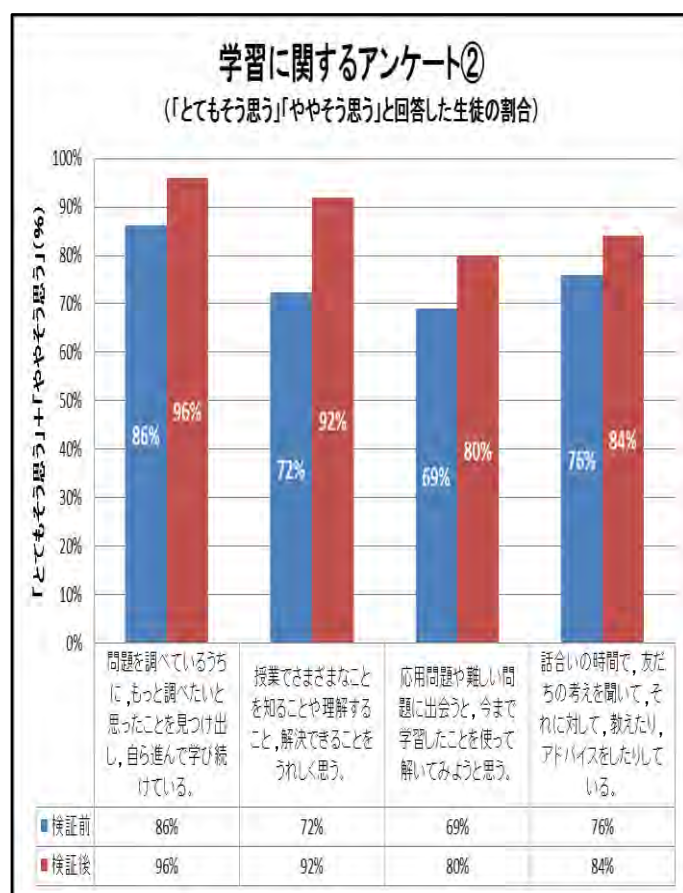


図 24 学習意欲と話し合い活動について (N=25)

図 23 で示した「学習に関するアンケート」結果の別項目について、数値が上がった項目を図 24 に示す。「自ら進んで学び続けている」、「理解すること、解決できることをうれしく思う」、及び、「今まで学習したことを使って解いてみようと思う」という項目で数値が上がった。これらのことより、生徒の学習に対する態度がより積極的になったと考ええる。これは、ピア・リーディングや話し合い活動を通して、自分の意見を表出する機会が増えたことにより、自らの学びを肯定的に捉えるようになったことによるものと考ええる。また、「友だちの考えを聞いて、それに対して、考えたり、アドバイスをしたりしている」という項目においても数値が上がった。これは、相手の意見を受け止めたり、相手の意見を更によくしたいという気持ち、つまり生徒の「相手意識」が向上したことによるものであると考ええる。

### ③振り返りシートの自由記述より

|                                                                                                                          |                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 振り返りシート項目<br>4:よくできた 3:ややできた 2:あまりできなかった 1:ほとんどできなかった<br>①聞くこと②話すこと③ピア・リーディング④話し合いについて合計18項目を調査。<br>【生徒A】女子 振り返り平均値 3.76 |                             |
| 第1時                                                                                                                      | ペアでしっかりトークできた。              |
| 第2時                                                                                                                      | ペアでするのが楽しい！話し合いもたくさん発言できた。  |
| 第3時                                                                                                                      | 自分の意見を言えた。                  |
| 第4時                                                                                                                      | 単語を読むスピードがだいぶ速くなった。         |
| 第5時                                                                                                                      | 楽しかった。                      |
| 総合                                                                                                                       | ペア活動が多かったので楽しく活動できました。      |
| 【生徒B】女子 振り返り平均値 3.39                                                                                                     |                             |
| 第1時                                                                                                                      | 内容がまだよく分からなかった。次はしっかり理解したい。 |
| 第2時                                                                                                                      | ペアで話せて楽しかった。                |
| 第3時                                                                                                                      | 内容が分かってきた。                  |
| 第4時                                                                                                                      | 問題を解くことができた。                |
| 第5時                                                                                                                      | 単語や文法などいろいろ覚えられてよかった。       |
| 総合                                                                                                                       | 問題をすらすらとけるようにがんばりたいです。      |
| 【生徒C】男子 振り返り平均値 2.51                                                                                                     |                             |
| 第1時                                                                                                                      | ペア活動は楽しかった。                 |
| 第2時                                                                                                                      | ペア活動は難しい。                   |
| 第3時                                                                                                                      | 次の時間は頑張りたい。                 |
| 第4時                                                                                                                      | この前よりできている項目が増えた。           |
| 第5時                                                                                                                      | 最初に比べるとすごくよくなったと思う。         |
| 総合                                                                                                                       | 良かったと思う。                    |
| 【生徒D】男子 振り返り平均値 2.06                                                                                                     |                             |
| 第1時                                                                                                                      | けっこうできた。                    |
| 第2時                                                                                                                      | あまりできなかったので次は頑張りたい。         |
| 第3時                                                                                                                      | あまりできなかった。                  |
| 第4時                                                                                                                      | 難しかった。                      |
| 第5時                                                                                                                      | 難しかった。                      |
| 総合                                                                                                                       | 全体的には難しかったが、話の内容は理解できた。     |

図 25 振り返りシートにおける自由記述

図 25 は、振り返りシートについて、抽出した生徒の自由記述の内容である。これによると、生徒 A は、ペア活動に積極的に取り組む中で、意見を述べることや読むスピードが上がったことに実感を得ており、振り返りによる自己評価平均値も高い。生徒 B は、第 3 時以降、内容理解に手ごたえを感じ始め、単元終了後は前向きな気持ちで締めくくっている。生徒 C は第 4 時で、それまでの「難しい」という捉えから「この前よりできている項目が増えた」と自らの成長を認識している。さらに第 5 時では、単元開始時と自分と比較することで有用感を得ている。生徒 D は、第 1 時では肯定的な認識をしていたが、それ以降はやや否定的なものとなっている。しかし、単元終了後は、「難しかったが、話の内容は理解できた」と述べ、内容理解に関して自らを肯定的に認識している。

これらのことから、単元内で振り返り活動を導入することで、自らの学びの把握や過去との自分との比較といったメタ認知が作用し、自己有用感の向上や学習に対する意欲の向上につながったと考える。

### ④課題

今回の検証では、ピア・リーディングの成果をはっきりと示すことができなかった。今後は、ピア・リーディングの方法を更に研究し、最終的には習得しようとする言語、すなわち英語で内容の確認ができるようにしていきたい。

また、多様な価値観に基づき「合意形成」を図っていくような学習活動の工夫が足りなかった。今回の「相手意識」向上の取組を基にして、生徒たちがお互いの個性を認め合い、違いを乗り越えながら「関係形成」へとつなげていくような学習活動について、今後も継続して研究していきたい。

### 3 研究のまとめ

今回の研究により、協働・協調的な学びを通して、児童生徒の相手意識が向上し、コミュニケーション能力の向上や関係形成につながることを示すことができたと考える。

2 年間にわたり、「21 世紀型能力」の育成と「協働・協調的な学び」の充実をテーマに研究を行ってきた。2 年間の研究の中で、改めて上記の 2 つの観点から「コミュニケーション能力」を捉えなおすことができたことは大きな成果であった。学習活動を「価値あるコミュニケーションの場」とするために、相手意識向上や問いの設定の工夫、自己表現の重要性など、授業改善に必要な視点が明らかになった。

また、今年度の研究では、相手意識の向上について、小中高の各校種において共通して取り組んだ。この一貫性が児童生徒の資質能力を育てていくために必要なことであると考ええる。

来年度以降も、英語教育を取り巻く環境の変化に対応しながら、児童生徒の「21 世紀を生き抜く力」を育成する授業の在り方を研究していきたい。

### 《引用・参考文献》

- ・文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説外国語活動編』
- ・文部科学省（2008）『中学校学習指導要領解説外国語編・英語編』
- ・文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』
- ・岡部朗一（1993）コミュニケーションの定義と概

念, 橋本満弘・石井敏編『コミュニケーション論入門』 桐原書店

・植村勝彦・松本青也・藤井正志 (2000) 『コミュニケーション学入門』 ナカニシヤ出版

・辻大介・是永論・関谷直也 (2014) 『コミュニケーション論をつかむ』 有斐閣

・投野由紀夫編 (2013) 『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』 大修館書店

・舘岡洋子 (2005) 『ひとりで読むことからピア・リーディングへ 日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』 東海大学出版会

・Zoltan Dornyei (2001) “*Motivational Strategies in the Language Classroom*” Cambridge University Press